

2015年度 中央大学特定課題研究費 ー研究報告書ー

所属	文学部	身分	教授
氏名	土橋 茂樹		
NAME	Shigeki Tsuchihashi		

## 1. 研究課題

(和文) ニュッサのグレゴリオス『魂と復活について』におけるソーマ/サルクス研究

(英文) Sōma and Sarx in Gregory of Nyssa's de anima et resurrectione

## 2. 研究期間

2年

## 3. 研究の概要 (背景・目的・研究計画・内容および成果 和文 600 字程度、英文 50word 程度)

(和文)

本研究は、カッパドキア教父の一人ニュッサのグレゴリオスの唯一の対話篇『魂と復活について』(de anima et resurrectione)を 2014 年に公刊された新批判校訂版に基づき翻訳・註解した上で、同書における以下の主要テーマを探求することを目的とする。具体的には、まず、プラトン『パイドン』篇をモデルにした本対話篇にあって、プラトンとの異同はどの程度跡づけられるのか。グレゴリオスはピュタゴラス派やプラトニスト達の輪廻転生観をどのように批判克服し、キリスト教的「復活」の理念を提示し得たか。とりわけ、プラトン主義の大きな影響下において、いかにして身体および感情の復権がグレゴリオスに可能であったか。こうした根本的な問いを、ギリシア語概念「ソーマ(身体)」と「サルクス(肉)」に関するグレゴリオスに特徴的な区別に焦点を合わせることによってさらに深化・展開し、彼がプラトンの文脈の中にパウロのサルクス概念を読み込み、古代末期におけるプラトンの伝統を大きく変容させたことを論証していくことが本研究の骨子である。

以上の研究計画は、2015 2014 年度内に順調に進められ、大きな成果を得た。その研究成果の一部は、既に 2016 年 1 月に刊行された学会誌『パトリステイカ』第 19 号所収の「「神に似ること」から「キリストに倣うこと」へーニュッサのグレゴリオスにおけるプラトン主義的伝統の変容ー」において報告された。

(英文)

Gregory of Nyssa's *On the Soul and the Resurrection* is a dramatic dialogue modeled after Plato's *Phaedo* which depicts so-called Socrates' swan song. In this study, I will explore her argument that the resurrection is the restoration of our nature to its original condition, especially regarding the restoration of our bodies.